別企画
バファローズ
峻一 投手
インタビュー

ほとんど意識していませんでした。

―― どうしてここまで成長できたと思いますか？
佐藤　大学野球の道を選択したことで、それまでの「やらされる野球」を卒業し、「やる野球」を目指す自主性が身に付きました。何よりも「野球が好き」という気持ちの上に成り立つものだとは思いますが、上達したい一心で練習に取り組み、その中から目標を見い出し、その目標達成のために自分自身で創意工夫・試行錯誤を繰り返してきました。技術的には、ひとつのきっかけでガラっと変わることができます。しかし、そのきっかけを掴むことができるのはそれまで積み上げてきた努力や苦労があってこそだと思っています。

―― くじけそうになることはありませんでしたか？
佐藤　特に冬期間のトレーニングでは、きつい・つらいメニューはありましたが、全て自分自身のためと信じて乗り越えてきました。「もう駄目だ…」とくじけたり、あきらめたりしたことはないです。

―― いわゆる「野球名門校」の出身ではないですが劣等感等は感じていませんか？
佐藤　プロは実力の世界ですので、出身校など過去の経歴は関係ないと思っています。あえて挙げるとすれば、北海道で野球を続けてきましたので「雪国のハンディ」が全くなかったとは言えないことですかね。また、本州特有の「夏の暑さ」も慣れるまでは大変だろうなと思っています。

佐藤峻一（さとう しゅんいち）
1991年置戸町生まれ。置戸小学校３年の時に野球少年団置戸ジャガーズに入団。置戸中学校では外野手を経験し、２年後半から投手になると３年春には北見支部大会で優勝、中体連は７年ぶりにチームを管内大会へ導いた。北見柏陽高校に入ると１年夏からベンチ入り。３年夏は支部大会から北・北海道大会準々決勝で駒大岩見沢に敗れるまで無失点を記録。道都大１年の春から札幌６大学リーグ登板。２年春に５戦全勝で頭角を現すと２年秋４勝１敗、３年春５戦全勝と一躍チームのエースに。リーグ戦通算26勝４敗。２度のＭＶＰをはじめ、最優秀賞、ベストナインなど受賞多数。全日本大学野球選手権は１、３、４年に出場し、３年時にはベスト８入り。大学日本代表候補にも選ばれている。
昨年秋のプロ野球ドラフト会議にて、即戦力での活躍が期待される将来のエース候補として、オリックスバファローズから２位指名を受ける。その後の入団交渉で、背番号31、正式に置戸町出身者として初のプロ野球選手が誕生した。